

富津市認知症サポーターフォローアップモデル事業

実施報告書

富津市健康福祉部介護福祉課

1 富津市の紹介

富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40キロメートルに及ぶ海岸線と、緑豊かな鹿野山や、切り立った崖の鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かなまちです。

東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立といわれ南房総国立公園にも指定されています。富津岬の最先端にある五葉松をかたどった展望塔は、東京湾を一望できるだけでなく、冬に空気が澄んだときに富士山をくっきり観ることができます。また、ここから観る富士山は絶景で、関東の富士見百景に選ばれています。

東京湾アクアラインや館山自動車道の開通で、首都圏からのアクセスが向上、利便性が高くなり、潮干狩りや海水浴、ハイキングなどで多くの皆さんに楽しんでいただいています。

「シティプロモーションによる地域の活性化」、「市民参画によるマネジメントサイクルの実行」、「経営改革の推進」の3項目を軸に、市民が幸せを感じられるまちを目指しています。

2 富津市の概要

(1) 人口、高齢化率

富津市の人口は、年間約1,000人減少しているが、高齢者人口は年々増加をしています。特に75歳以上の増加の伸びが顕著で、今後も高齢化率が上昇する見込みです。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
富津市人口	46,865	45,972	45,734
65歳以上人口	15,729	15,976	16,148
65歳以上高齢化率	33.56%	34.75%	35.31%
75歳以上人口	7,654	7,792	8,033
75歳以上高齢化率	16.33%	16.95%	17.56%
一人暮らし高齢者	1,149	1,167	1,178

(各年4月1日現在)

(2) 要支援・要介護認定者数の推移

富津市では、65歳以上の高齢者の中で、17.3%の方が要支援・要介護認定を受けています。その中で、要介護1～3の認定者が多くなっています。

	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	認定者	構成比	認定者	構成比	認定者	構成比
要支援1	203	7.53%	218	7.84%	198	7.08%
要支援2	322	11.94%	362	13.03%	342	12.23%
要介護1	482	17.87%	462	16.62%	480	17.16%
要介護2	522	19.35%	533	19.18%	567	20.27%
要介護3	428	15.87%	472	16.98%	463	16.55%
要介護4	418	15.50%	413	14.86%	437	15.62%
要介護5	322	11.94%	319	11.48%	310	11.08%
合計	2697	100.00%	2779	100.00%	2797	100.00%

(各年4月1日現在)

(3) 認知症高齢者の日常生活自立度別人数

要支援・要介護認定者を受けている方の認知症高齢者の日常生活自立度です。ランクのⅡからMは、日常生活に支障をきたす症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、要支援・要介護認定者の約6割を占めています。

ランク	判断基準	平成29年度	
		認定者	構成比
自立	全く認知症を有していない	552	19.76%
I	何らかの認知症を有するが、日常生活者家庭内および社会的にほぼ自立している。	638	22.83%
Ⅱa	家庭外で日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	241	8.63%
Ⅱb	家庭内でも日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	619	22.15%
Ⅲa	日中を中心として日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	469	16.79%
Ⅲb	夜間を中心として日常生活に支障をきたすような症状・行動や意	115	4.12%

	思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。		
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁にみられ、常に介護を必要とする。	148	5.30%
M	著しい精神症状や行動障害あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする。	12	0.43%
合計		2794	100.00%

(各年4月1日現在)

2 高齢者への支援体制

富津市では、「高齢者がいきいきと輝くまち」の実現を目指し、以下の高齢者施策（主なものを掲載）を実施しています。

1 相談	・地域包括支援センターによる総合相談
2 高齢者見守り	・富津市高齢者見守り事業 ・富津市要援護者地域見守り事業
3 介護予防活動	・介護予防教室 ・富津市いきいき百歳体操
4 認知症の正しい理解の普及啓発	・認知症サポーター養成講座 ・認知症サポーターフォローアップ講座 ・あったかふつつ認知症サポートガイド（認知症ケアパス）
5 認知症の人と介護者への支援	・認知症初期集中支援チーム（平成 30年4月実施）

3 認知症サポーターフォローアップモデル事業への応募動機について

認知症に関する正しい知識を持ち、認知症の人やその家族を応援する認知症サポーターを養成するため平成 18 年度から実施しており、平成 29 年 4 月 1 日現在で、認知症サポーターは 1,391 人養成をしています。

この養成講座は、一般市民をはじめ、民生委員や地区社会福祉協議会、商店、小中高校生、市役所職員等、様々な方に実施をしてきました。

現在、高齢化が進む中で、徘徊高齢者による行方不明者の増加傾向であり、今後もさらに増加することが予想されます。

そのため、認知症サポーターが認知症に関する知識を高め、認知症に関する事業等で活躍していただく認知症サポーターを育成するため、「千葉県認知症サポーターフォローアップモデル事業」に応募し実施することとしました。

4 千葉県認知症サポーターフォローアップモデル事業の実施概要

(1) 開催日程について

2日間に亘る千葉県認知症サポーターフォローアップ講座カリキュラムに沿って実施しました。

また、2日目のふれあい体験は、特別養護老人ホームつつじ苑の協力のもと実施することとしました。

全2回実施をするため、インフルエンザの流行時期を除いた11月、3月に実施することとしました。

・第1回目

	1日目	2日目
会場	富津市役所401会議室	特別養護老人ホームつつじ苑
日時	平成29年11月16日(木) 10:00~16:00	平成29年11月17日(金) 10:00~16:00
定員	20人	

・第2回目

	1日目	2日目
会場	富津市役所401会議室	特別養護老人ホームつつじ苑
日時	平成30年3月15日(木) 10:00~16:00	平成30年3月16日(金) 10:00~16:00
定員	20人	

(2) 講師

当市においては、認知症サポーター養成講座は、市や地域包括支援センター職員により実施をしています。

このことから、認知症サポーターフォローアップ講座を、市と地域包括支援センター職員で実施しました。

- ①司会 市介護福祉課高齢者支援係職員 1人
- ②講師 地域包括支援センター職員 3人
市認知症地域支援推進員 1人

※司会、講師共に「キャラバン・メイト養成研修」を修了済です。

(3) 講座実施のカリキュラム

	時間	内容
第1日目	10:00~12:00	認知症の基礎知識
	13:00~16:00	認知症ケアにおけるコミュニケーション
第2日目	10:00~11:50	認知症の人と生活環境
	12:50~16:00	認知症高齢者のふれあい体験

(4) 募集方法

・第1回目

10月17日	第1回認知症サポーターフォローアップ講座の募集開始 富津市ホームページに、募集開始の記事を掲載
	平成27年4月1日から平成29年10月3日までに認知症サポーターを受講かつ年齢が75歳未満の202人のうち、101人に開催通知を送付
10月19日	千葉県ホームページ掲載
	千葉県から、各市町村認知症サポーター養成講座事務局に案内送付
10月31日	募集締め切り

・第2回目

2月16日	第2回認知症サポーターフォローアップ講座の募集開始 富津市ホームページに、募集開始の記事を掲載
	平成27年4月1日から平成29年10月3日までに認知症サポーターを受講かつ年齢が75歳未満の202人のうち、※103人に開催通知を送付
	※うち2人は、第1回目に開催通知を送付したが、その際に受講できず、第2回目実施の時にも案内を送付して欲しい旨があった。
	千葉県ホームページ掲載
3月2日	千葉県から、各市町村認知症サポーター養成講座事務局に案内送付
	募集締め切り

5 千葉県認知症サポーターフォローアップモデル事業の実施内容

(1) 参加者について

講座の参加者については、女性の参加が多くあった。また、参加年齢は51歳から74歳までと若い方の参加者はいませんでした。

参加申し込み時の声では、若い方から「土日であれば仕事に都合が付く」、「平日の2日間の出席は難しい」との声もありました。

	第 1 回			第 2 回		
	男	女	合計	男	女	合計
人数 (人)	2	11	13	1	9	10
平均年齢 (歳)	67	67.9	67.7	70	67.4	68.7

【参考 (市アンケート)】 回答は第1回、第2回合算

○どのような動機で参加されましたか

動 機	回 答(人)	構成比(%)
①認知症の人やその家族に関して興味があったから	3	13.0
②認知症に関して興味があったから	0	0.0
③認知症について理解したかったから	19	82.7
④その他	1	4.3
合 計	23	100

○この講座を知ったきっかけは何ですか。

きっかけ	回 答(人)	構成比(%)
①市からの案内	23	100
②富津市や千葉県のホームページ	0	0
③知り合いから聞いた	0	0
④その他	0	0
合 計	23	100

(2) 講座の内容について

①認知症の基礎知識 (1日目午前中)

【学習計画】

目的	認知症状の基礎知識と特徴を学び、認知症の人の生活の様子を理解できるようになる
学習計画	1 身近な地域における認知症の人をとりまく生活の現状について理解できる

	<p>2 認知症の基礎知識を振りかえり、症状や影響要因を理解できる</p> <p>3 行動・心理症状を学び、接し方に配慮する心構えができる</p>
概要	<p>自ら住む地域において認知症対策がどのようなものか知識を持ち、住民同士の助け合いの必要性を理解する。その上で、実際に支援を行う際に必要となる知識を振り返り学ぶ。</p> <p>事例を提供して理解を促し、具体的なイメージを持てるようにする。</p>

【工夫した点】

講座では、グループワークを中心に行うため、グループごとに講師1人に担当させることで、スムーズにワークが進むように工夫を行いました。

【講座の様子】



講座の様子



グループワークの様子

【参考（市アンケート）】 回答は第1回、第2回合算

○内容は理解できましたか。

「理解できた」、「多少理解できた」と回答されました。

選択	回答数	構成比
理解できた	10	43.5%
多少理解できた	13	56.5%
あまり理解できなかった	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%
合計	23	100.00%

○内容は難しかったでしたか。

約80%の方が、「難しかった」、「少し難しかった」と回答されました。

選択	回答数	構成比
----	-----	-----

難しかった	7	30.5%
少し難しかった	11	47.8%
あまり難しくなかった	3	13.0%
難しくなかった	2	8.7%
合計	23	100.00%

○意見等

- ・認知症は奥が深く接し方が難しいと思った。
- ・認知症の人を尊重する心構えが出来た。

②認知症ケアにおけるコミュニケーション（1日目午後）

【学習計画】

目的	認知症の人における、コミュニケーションの基本を知る。
学習計画	1 自分が発したメッセージを相手がどう受け止めるかを察することができる 2 自分の価値観をおしつけることなく、他者とのふれあいができるようになる
概要	認知症の人と触れ合うときに必要となる基本的なコミュニケーション知識を学ぶ。 ロールプレイ演習にて行動・心理症状を示す人の気持ちを体感する。

【工夫した点】

1日目午前中と同様にグループごとに講師1人を担当させることで、スムーズにワークが進むように工夫を行った。

【講座の様子】



講座の様子



ロールプレイの様子

【参考（市アンケート）】 回答は第1回、第2回合算

○内容は理解できましたか。

概ね「理解できた」、「多少理解できた」と回答されました。

選択	回答数	構成比
理解できた	10	43.5%
多少理解できた	12	52.2%
あまり理解できなかった	1	4.3%
理解できなかった	0	0.0%
合計	23	100.00%

○内容は難しかったでしたか。

約56%の方が、「難しかった」、「少し難しかった」と回答されました。

選択	回答数	構成比
難しかった	7	30.4%
少し難しかった	6	26.1%
あまり難しくなかった	6	26.1%
難しくなかった	4	17.4%
合計	23	100.00%

○意見等

- ・どのような内容のことを話せばでコミュニケーションを図れるか悩みました。
- ・見ず知らずの相手に安心感を与えることがとても難しい。
- ・講師が補助に入ってくれたので、グループの話し合いが活発になった。

③認知症の人と生活環境（2日目午前）

【学習計画】

目的	認知症高齢者が、生活する、人的、物的、社会的環境について学習する。
学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 認知症高齢者の個々における生活の困難さを理解できる 2 認知症の人の混乱には、本人や本人に関係が深い原因があることを理解できる 3 認知症の人の感覚や体験している世界を受容し共感した対応ができる
概要	認知症高齢者を取りまく人間関係の人的環境、住まい（自宅、グループホーム、施設等）を中心とした住居環境及び社会環境、生活を

	理解する。様々な症状の理解と対応の知識を得て、支援者として関わる際の心構えを深める。
--	--

【工夫した点】

1日目に学習したことについて重なる点もあり、事例を交えて伝えることで、より理解が出来るように工夫した。

【講座の様子】



講座の様子

【参考（市アンケート）】 回答は第1回、第2回合算 ※欠席1人

○内容は理解できましたか。

「理解できた」、「多少理解できた」と回答されました。

選択	回答数	構成比
理解できた	10	45.5%
多少理解できた	12	54.5%
あまり理解できなかった	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%
合計	22	100.00%

○内容は難しかったでしたか。

約60%の方が、「難しかった」、「少し難しかった」と回答されました。

選択	回答数	構成比
難しかった	6	27.3%
少し難しかった	7	31.8%
あまり難しくなかった	1	4.5%
難しくなかった	8	36.4%
合計	22	100.00%

○意見等

- ・コミュニケーションの取り方で注意すべき点と、日頃の自分の行動を振り返る良い機会でした。
- ・環境が生活へ与える影響が非常に大きいことが解った。

④認知症高齢者とふれあい体験（2日目午後）

【学習計画】

目的	今まで学んだ講義内容から、実際に認知症高齢者と接する上で、自分自身の特徴への課題をふれあい時に活かすこととし、実習の目的とする。生活支援の一部を担う体験を行うことで、学びで得た知識の活用と成果を確認することができる。地域における活動の際には心構えを持って前向きに参加できるようになる。
学習計画	1 講義で得た知識を活かし、自分自身の特徴への課題を念頭に置き、認知症高齢者と接する。 2 認知症本人の困難さを理解できる。 3 今後の地域活動における認知症高齢者支援の心構えができる。
概要	認知症高齢者とのふれあい体験を行う。障害別の特徴を踏まえた基本支援のロールプレイで体感したことを土台にして、個々の高齢者の具体的な接し方を思考する。

【工夫した点】

2時間のふれあい体験で、どのように実施したら効果的か、施設側との話し合いを2回設けました。

施設が、介護老人福祉施設、短期入所生活介護、通所介護を併設しているため、担当する認知症の方を迎えに行き、鉄砲巻（太巻き寿司）の作り方を教えて一緒に作る。鉄砲巻を食べながらコミュニケーションを図る。認知症の方を利用場所に連れて帰るという一連の流れを、参加者に実施していただくことで、楽しくコミュニケーションを図りやすい環境づくりを実施した。

【講座の様子】



施設長あいさつ



ふれあい体験の概要説明



認知症の方とのコミュニケーション



10メートルを超える鉄砲巻が完成！！

【参考（市アンケート）】 回答は第1回、第2回合算 ※欠席1人

○内容は理解できましたか。

「理解できた」、「多少理解できた」と回答されました。

選択	回答数	構成比
理解できた	14	63.6%
多少理解できた	8	36.4%
あまり理解できなかった	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%
合計	22	100.00%

○内容は難しかったでしたか。

約60%の方が、「難しかった」、「少し難しかった」と回答されました。

選択	回答数	構成比
難しかった	6	27.3%
少し難しかった	7	31.8%
あまり難しくなかった	1	4.5%
難しくなかった	8	36.4%
合計	22	100.00%

○意見等

- ・楽しい反面難しいと思う。にこにこするのは難しいです。
- ・笑顔と優しい言葉で声掛けと、愛情と感謝を持って皆さんと接し、笑い声、顔が返ってきてよかったと思う。
- ・こちらから話しかける方が多いが、利用者さんがとても良いお年寄りで楽しかった。様々な人に体験して欲しい。
- ・喜び悲しみの心はいつまでも残っていてほしい。感謝。
- ・とても楽しかった。みんなで力を合わせれば何でもできる。

⑤その他アンケート結果

○2日間の講座受講の成果と思うことは。（指定用紙2 抜粋）

- ・今までとは違った経験をさせてもらって、これからの活動の課題を見つきたい。
- ・心の結びつきが、こんなにスムーズに出来るようになるとは、とても嬉しい。
- ・認知症の方々へ想いが深まり、今回のような機会をもっと体験していきたいと思いました。認知症についての勉強会と多くの方たちが学んでほしいと思いました。

- ・認知症に対する「暗い」というイメージから、ふれあい体験を通じて声かけ1つで認知症の方や介護者の気持ちが変わってくることを再認識しました。
- ・どんな人にも人格があるという事を忘れないで行動しようと思いました。
- ・体験談を聞くことが出来て、今回参加した意味が充分にあった。

○これからのあなたの認知症サポーターの活動について、考えていることを記入してください。(指定用紙2 抜粋)

- ・自分を構えないで、いろんな方とフランクに接していけたらと思います。
- ・出来る協力があったら考えてみたい。
- ・ごく普通に当たり前のこととして、認知症の人と関わりたい。構えることなく自然体で日常生活の中で行えたらいいと思う。
- ・個人ではなく、皆さんと一緒に活動をしてもいいのかなと思います。
- ・見守るくらのサポーターならできる。
- ・これからは益々、認知症の人が増えてくると思う。仲よく支え合っていきたい。

○認知症サポーターとしてご協力をお願いしてもよいですか。

(市アンケート 回答は第1回、第2回合算)

ご協力	選択数	構成比
①協力してもよい	10	43.5%
②協力しない	2	8.7%
③何とも言えない	10	43.5%
④無回答	1	4.3%
合計	23	100.00%

○意見等

- ・自分がいつ認知症になるかわからない年齢ですが、元気なうちは参加し勉強したいです。
- ・どのような協力できるか？と思いますが、自身にも起こりうることなので今のうちにお役に立てればと思う。
- ・体調と相談しつつ、活動に参加をしたい。

6 まとめ

認知症サポーター養成講座は、認知症の理解が中心でありましたが、今回の講座は、認知症の人と触れ合うためのコミュニケーションや支援方法について学ぶ機会となります。そのため、講座にはグループワークやロールプレイが中心となるため、各グループに各講師1人を配置することによってスムーズに進むよう工夫を行いました。

また、ふれあい体験を2時間かけて行い、コミュニケーションを図る場を整えることで、参加者も認知症の方もスムーズにコミュニケーションを図ることができました。

当市では、認知症サポーターが認知症に関する知識を高め、認知症に関する事業等で活躍していただく認知症サポーターを育成する目的をもって実施し、約45%の方が「認知症サポーターとして協力してもよい」と回答いただきました。

今年度は、2回の認知症サポーターフォローアップ講座を実施しましたが、共に平日の開催としました。その際に、「参加をしたいが、仕事で平日だと参加が難しい」などの声があったため、土日での開催も検討をしていきたいと考えます。

7 終わりに

当市では「高齢者がいきいきと輝くまち」を基本理念とし、その実現のため各種事業を実施してきました。認知症を罹患をしている方も同様に、「高齢者がいきいきと輝く」ように、住み慣れた地域で安心して生活をするためには、認知症サポーターをはじめとする、地域で認知症の方とその家族を理解し、見守っていただくことが重要です。

そのため、当市の認知症サポーターの養成は、一般市民をはじめ、民生委員や地区社会福祉協議会、商店、小中高生、市役所職員等、様々な方に実施してきましたが、来年度は市内全中学校に養成講座を実施していきます。

また、本フォローアップ講座を修了した方を、認知症カフェや徘徊模擬訓練等の認知症の見守り協力員として活用することで、地域で認知症の方とその家族を支えるまちづくりを推進していきたいと考えております。